本年も市内の中学２年生男女12名、引率者２名が、７月31日から11日間の日程で姉妹都市のオーストラリア・ハーストビル市を訪問し、国際理解と交流を深めました。今月号では、生徒と引率者の感想文をご紹介します。

「ハーストビルでの体験記」　小原中学校　一條（いちじょう）　好佑（こうすけ）

オーストラリアに行くに当たって、僕にはいくつか不安がありました。1つ目は、ホストファミリーの方々とコミュニケーションを取って、楽しいホームステイができるかどうかでした。2つ目は、オーストラリアの料理をしっかり食べられるかどうかでした。しかし不安は、ホストファミリーの方々と出会うとすぐに解決しました。それは、ホームステイさせていただいたキムファミリーが、とても愉快で気さくな方々だったからです。特にスコットという16歳の男の子は、明るく日本語も上手でアニメの「ナルト」や「ワンピース」の話で盛り上がりました。このほかにもホームステイでは、土・日曜日に動物園や水族館、博物館と3カ所も連れて行ってくれました。動物園では、オーストラリア国旗にも描かれている、ダチョウやカンガルーなどを近くで見ることができました。このようなサプライズを用意してくれたホストファミリーには感謝の思いでいっぱいです。また、首都のキャンベラでは、国会議事堂の中を視察したり、日本とオーストラリアとの戦争の記録を知るための、戦争記念館を見学したりすることができました。そこには、戦闘機や潜水艦などがそのままの形で展示してあり、胸に突き刺さるものもありました。

僕にとって、このオーストラリアのハーストビル使節団として選ばれたことは誇りであり、生涯の宝物になりました。まして言葉の伝わらない国でのホームステイは、一生に一度できるかというくらいの貴重な体験だったと思います。そんな体験で僕が学んだことが2つあります。

▲ハーストビル市役所前で撮影

1つ目は、交流の大切さです。どんなに言葉が伝わらなくとも、ジェスチャーや英単語だけでも伝えようとする心があれば自然と伝わります。伝えるには、まず自分の気持ちを真っさらにして思いを伝えようとする心が大切なのだと思いました。2つ目は、何事も楽しむことです。オーストラリアでは、文化の違いから少し苦痛だったこともありました。しかし、そんなことは気の持ちようで何とでもなるということです。自分が素直な気持ちで接すれば、相手の気持ちも開かせることができます。最後になりますが、引率してくださった佐藤（さとう）さんと齋藤（さいとう）さんに深く感謝します。

ハーストビル友好親善訪問団通信

引率市民公募者　齋藤（さいとう）　元子（もとこ）

平成6年から毎年欠かさず行われてきた市内中学生の派遣。本年度も各学校より選出された12名の生徒たちは、その責任を自覚し、大きな希望と少しの不安を抱えながら7月31日の午後、市役所から出発しました。飛行機の中ではうまく睡眠を取ることができなかった彼らでしたが、シドニー近郊の海辺に着くころには事前研修の時のようなはしゃぎぶりが見られ、その後の散策でも精力的に動き回っていました。そんな後ろ姿を見ながら「このまま無事に白石まで帰ることができますように」と祈らずにはいられませんでした。

その日の夜から5日間のホームステイです。ハーストビル市役所に出迎えてくれたホストファミリーとの対面、ここまで一緒だった仲間たちとしばし離れるということが急に実感となったのでしょう。みんなの表情が硬くなっていくのが印象的でした。もちろんその後の報告を聞く限り、この11日間の最良の思い出として全員がホームステイ先での話を挙げていたのですから、本当に有意義に過ごすことができたようです。たとえ語学力が足りなくても、相手を思いやる気持ちがあれば何ら障害ではなく、心から打ち解け合うことができる！　このことが今回の最大の収穫となりました。

「ハーストビル友好親善訪問団通信」は、参加した生徒たちとそのご家族の皆さんへのお便りです。お子さまを11日間、しかも初めての海外でホームステイ！　そんな不安や心配事を少しでも和らげてほしいと思い、事前研修の内容や準備物などを少しずつお知らせしていました。本来ならば、帰国後も交流内容などを報告として発行すべきところでしたが、出発前のNo. 5で解団式を迎えてしまいました。このことがとても心残りとなっています。日豪文化交流協会理事長の戸倉勝禮（とくらかつのり）さんと、案内や観光などを引き受けていただいたミディ中島（なかじま）さんには大変お世話になりました。お二人のお力添えがあるからこそ、この交流が深く続いているのだと思います。その思いに答えるべく、微力ではありますが、今後もこの交流に携わって行けたらと考えています。

最後になりますが、貴重な経験を与えていただいた関係者の皆さまや快く送り出してくれた職場の皆さん、そして家族に深く感謝します。

▲オペラハウスの前で撮影

市内の各幼稚園では、学習指導要領の狙いを受けて「生きる力の基礎を育成する」さまざまな教育活動を行い、特色ある幼稚園づくりを進めています。「教育のひろば」では、家庭・幼稚園・地域がお互いを理解するとともに、同じ目的に向かって協力し合える姿を目指し、教育活動の紹介を行っています。今月は第一幼稚園です。

白石市第一幼稚園

☎26-2347　FAX26-2481

教育目標

心（こころ）豊かに、心身共に
たくましく生きる子どもの育成

1．明るく元気な子ども
・友達と一緒に仲良く遊ぶ。
・話をよく聞き、思ったことを素直に話す。
・何事にも興味を持ち、力いっぱい取り組む。

2．感情豊かで優しい子ども
・身近なものに興味や関心を持ち工夫して遊ぶ。
・経験したこと、感じたことを喜んで表現する。
・友達を思いやる優しい気持ちを持つ。

園の特色

当園は昭和２年に開園した、創立80年の伝統ある幼稚園です。市の中心部に位置し、隣接して第一小学校、情報センターアテネ、図書館、第一児童館があります。

・園石：べこ石　・園木：いちょう　・園花：菜の花

※べこ石：白石出身の詩人、故・鈴木梅子（スズキウメコ）氏直筆の詩が刻まれている、牛の形をした石。城北町の大味（オオミ）さんから40年以上前、当園が現在地に移るころにいただいたものです。今後も園史と共に歩み、ずっと子どもたちを見守っていくのでしょう（詩：「べこのせなかは　あたたかい　のってなでれば　よろこんで　せなかでおうたを　うたいます」）。

●特色ある教育活動

■直接体験を大切にした保育

・週1回の園外保育

毎週水曜日を園外保育の日とし、おむすびと水筒を持って近くの河川敷公園や益岡公園に出掛けます。広々とした場所で体を十分に動かし、遊びながら季節の変化を感じるなど、楽しい時間を過ごしています。自然と触れ合いながら楽しく遊び、元気に歩くことで体力作りを図っています。

▲写真上は白石川河川敷公園、写真下は益岡公園での園外保育。それぞれの場所で楽しく過ごす子どもたち

・園庭の畑での収穫

園庭にある畑ではサツマイモやナス、ピーマン、トマトなどを栽培しており、みんなで食べて収穫の喜びを味わいます。

・小学校や保育園との交流

昨年は、西保育園や第一小学校の子どもたちと交流しました。西保育園では同園の子どもたちと園庭で一緒に遊んだり、年齢ごとにふれあい遊びを行ったりして楽しく過ごしました。第一小学校では、授業見学や学校を身近に感じるために遊びへの参加、給食体験を行いました。

・「ぴょんぴょん広場」での園開放

未就園児とその保護者の方を対象に、年３回園を開放しています。園庭の開放や運動会への参加もあり、子どもたちも保護者の方も、共に新しい友達との、出会いの場となっています。ぜひご参加ください。

■心豊かに育つ保育

心豊かな子どもの育成を図ろうと、絵本の読み聞かせや、お話などの時間を大切にしています。また、日常の遊びの中で、年齢の異なる子どもたち同士で触れ合う遊びを計画的に実施しています。

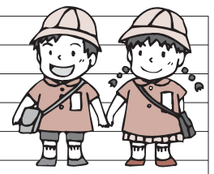
■80周年記念式典

昨年７月１日、創立80周年を迎えました。子どもたちの歌声が響き渡る手作りの式典を開催し、親子コンサートを行いました。また、これまで当園にかかわった皆さんや、卒園生の皆さんから心温まるメッセージをいただき、記念誌「きらきら」を発行することができました。

▲記念式典会場で美しい歌声を披露する子どもたち

■主な年間行事

4月	始業式、入園式
5月	春の遠足
6月	プール遊び
7月	七夕祭り、終業式
8月	夏休み、始業式
9月	運動会
10月	国際交流会、秋の遠足
11月	保育参加
12月	子ども会、終業式
1月	始業式、コマ回し会
2月	豆まき会、一日入園
3月	ひな祭り会、お別れ会、修了式



※年間を通して毎月１回、誕生会を実施